

## グローバルCOE特別セミナー (GCOE「統合生命学」)



演題: **Disrupted-in-Schizophrenia-1 (DISC1)の後シナプスにおける機能:  
統合失調症の病因・病態としての後シナプス**

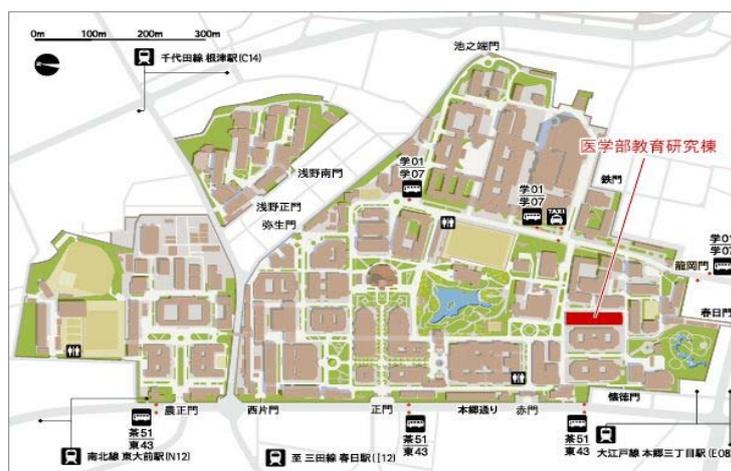
演者: **林 朗子 MD PhD**

ジョンス ホプキンス大学  
精神神経科学 細胞分子医学部門 (澤明研究室)

日時: 平成 21 年 8 月 4 日 (火) 18 : 00 ~ 19 : 00

場所: 医学部教育研究棟 2 階 第 1 セミナー室

統合失調症は病因不明の難治性疾患であり、遺伝的影響が大きく、シナプス減少及びグルタミン酸伝達低下などが病態生理として知られている。われわれは、疾患候補遺伝子である Disrupted-in-Schizophrenia-1 (DISC1) が後シナプスに局在し、同部位において、後シナプス機能に重要な役割を担う分子 Kal-7 と結合することに注目した。免疫組織化学、電気生理学、生化学的手法を用い、DISC1/ Kal-7 シグナルの遺伝子改変の効果を検証した結果、DISC1 は神経活動依存的に Kal-7 経路を調節しグルタミン酸シナプスの形態維持に関与すること、さらに DISC1 の機能障害は、シナプス密度の減少が生じることを見出した。本セミナーでは、後シナプスにおける DISC1 機能についての我々の最近の知見を紹介し、その治療学的展望についても紹介する。



【主催】 構造生理学・精神医学

【問合せ先】 構造生理学 河西 03(5841)1440

<http://www.bm2.m.u-tokyo.ac.jp/>